

「富岡町におけるイノシシ中の放射性物質濃度評価;地域振興のためのモデルケース作り」 2019年度補助事業の実績・成果

国立大学法人長崎大学 連携市町村：富岡町

現地拠点：双葉郡富岡町本岡王塚622-1

事業のポイント

東京電力福島第一原子力発電所事故後、全域避難を余儀なくされ、その後2017年4月に帰還を果たした福島県双葉郡富岡町において、富岡町役場との連携のもと、町内で捕獲したイノシシ中の放射性物質濃度を測定することによって、環境への放射能影響及び、イノシシを食した際の内部被ばく線量の評価を実施する。そして、得られた結果をもとにして、住民、行政、地元企業や専門家と共に結果を共有していくことで、地域の課題に密接した地域支援だけでなく、富岡町の住民、行政、企業、専門家が連携して復興創生していく地域振興に向けた取り組みへと展開するものである。

今年度の活動実績

今回、イノシシ肉を採取した期間は2019年4月11日から12月27日までで、これまでに202個のイノシシ肉中の放射性物質濃度測定を実施した。ゲルマニウム半導体検出器を用いて測定した結果、検出された放射性セシウム濃度の中央値は1キログラム当たり433.1ベクレル、最小値は87.1ベクレル、最大値は8119.5ベクレルだった。イノシシは現在、国からの摂取制限が指示されているが、これらのイノシシを1回摂取した場合の預託実効線量の中央値は、男性で0.32μSv、女性で0.23μSvと推定された。多くのイノシシから現在の基準値(100ベクレル/kg)を超える放射性セシウムが検出され、今後も注意深いフォローアップが必要であると考えられた。

富岡町の関係者の皆さんとこの結果を共有した際、イノシシ中の放射性セシウム濃度の差に影響を及ぼす要因として、イノシシはどんぐり、栗の実、きのこ、新芽や根、芋、タケノコ、サツマイモ、豆類、ミズなどなんでも食べると知られていて、食材の旬や、食材に含まれる放射性セシウムの量によって、イノシシ中の放射性セシウム濃度に影響を及ぼしているのではないかと、また、イノシシが生活している環境中の放射能汚染の程度によっても、イノシシ中の放射性セシウム濃度に影響を及ぼしているのではないかなどの意見が聞かれた。

今年度の成果

今回測定した多くのイノシシから、現在の基準値を超える放射性セシウムが検出された。今後も注意深いフォローアップが必要であると考えられる。今後も引き続き、富岡町で捕獲されるイノシシ中の放射性セシウム濃度の評価を継続的に実施していくことによって、将来のイノシシの利活用に向けた取り組みのための基礎データとしてデータベース化し、地域振興に向けた取り組みへ貢献していきたいと考える。

イノシシ中の放射性物質濃度

	イノシシ中の放射性物質濃度 中央値 (最小値-最大値)
放射性セシウム*	433.1 (87.1 - 8119.5) (Bq/kg)
セシウム134	27.8 (ND-509.2) (Bq/kg)
セシウム137	410.9 (81.1-7610.3) (Bq/kg)
預託実効線量;成人男性*	0.32 (0.07-6.1) (μSv)
預託実効線量;成人女性	0.23 (0.05-4.3) (μSv)

*放射性セシウム;セシウム134とセシウム137の合算

*成人男性は1回約60g、成人女性は1回40g摂取したとして計算

濃度別のイノシシ中の放射性物質濃度

